

閉鎖型風水景観の特徴把握

—韓国農村集落における風水景観に関する研究 その4—

正会員 ○山口 泰佑*¹ 同 佐藤 誠治*²
同 姫野 由香*³ 同 野口 浩平*¹

景観 風水 農村集落
韓国 集落調査 線画

1. はじめに

研究の背景と目的についてはその1で示したとおりであるが、その2では閉鎖型について詳しく論ずる。

閉鎖型とは、「地形構造的な分類で、細分類による違いはあるものの大分類では四神方向を山に囲まれており、川との関係が少ないもの」と著者らの既往研究¹⁾によって定義している。これまでの研究においては単に構造的な特徴による分類²⁾であったが、本研究では、風水理念との照合や要素分布分析を通して閉鎖型の景観的な特徴についての分析を進めることとする。

2. 風水理念との関係

閉鎖型に分類した集落は、さらに細かく分けると「谷奥型」「蔵風得水型」「山間型」となり、これらは構造的な特徴からみると風水理念の蔵風法³⁾という理念から成り立っていることがうかがえる。この理念は周囲を龍(山)で囲むことによって明堂³⁾から吹き出る風と共に生気まで出ていくことを防ぐ効果があるとされている。

さらに「蔵風得水型」では、朱雀方向で水とのかかわりを持つことによって得水法の理念も取り入れた配置であるといえる³⁾。このように、大分類は単に地形構造的な特徴によった分類ではなく、風水の理念に裏付けのある分類である。

3. 集落調査からみた閉鎖型の特徴

表1に集落調査集計表を示す。閉鎖型の集落は13集落中に6集落確認された。集落外の四神方向の要素をみると、6集落中5集落が四方を山に囲まれている。「9.龍田(ヨンジュン)」は集落内の四神の要素に田畑が多く、集落外でも四方が山で囲まれないが、そういった例を除けば、閉鎖型風水景観を有する集落では、朱雀方向以外は開けていないことがうかがえる。各集落を地形ごとに分類した項目⁴⁾をみると、6集落中5集落が「ふもと」、1集落が「谷あい」に類型できた。閉鎖型の立地的特性としては「ふもと」が多いことが分かる。

また、これまでの調査でも集落内外の主要な要素分布については触れたが、さらに詳しく閉鎖型の要素分布の特徴について述べる。

墓の位置は閉鎖型では6集落中5集落で「主山中腹」に墓を置いている。これは、蔵風法という理念を用いる際に水とのかかわりまでは追求しないため、集落の位置をもともと墓に適した位置の近くにつくることができたからではないかと考えられる。

閉鎖型は山の谷間などに集落をつくることで、明堂³⁾の形が縦長くなり集落の入り口がはっきりとするため亭の位置は6集落中5集落で「入口」に配置されていた。

祠堂は閉鎖型では確認することができなかった。これは、閉鎖型では四方を山に囲まれるため集落が拡大しに

表1 集落調査集計表(閉鎖型)

No.	集落名	既往研究による類型	全体構成								地形	要素分布								
			四神方向の要素									墓	亭	巨樹老木	祠堂	系の家	書院	集会所	教会	
			集落内				集落外													
玄武	青龍	白虎	朱雀	玄武	青龍	白虎	朱雀	玄武	青龍	白虎	朱雀									
8	汀埕(ヤンジ)	谷奥	山	川	山	畑	山	山	山	山	山	谷あい	主山中腹	入口	入口	×	背後	×	入口	×
9	龍田(ヨンジュン)	谷奥	田	田	田	田	山	田	嶺線	田	ふもと	主山中腹	入口	入口	×	×	×	×	入口	×
10	安琴(アングン)	蔵風得水	山	谷	嶺線	畑	山	嶺線	嶺線	山	ふもと	主山中腹	入口	入口	×	集落内	×	×	集落内	×
11	東嶺(ドンリョン)	蔵風得水	田	嶺線	嶺線	道	山	山	山	山	ふもと	分散	入口	入口	×	×	×	×	集落内	×
12	屯洞(ドゥンドン)	山間	山	畑	山	畑	山	嶺線	嶺線	山	ふもと	主山中腹	邸宅内	背後・邸宅内	×	集落内	×	入口	入口	×
13	内春(ネチュン)	山間	山	山	山	山	山	山	山	山	ふもと	主山中腹	入口	入口	×	集落内	×	×	集落外	×

くということが要因として考えられる。

系の家と呼ばれる韓国特有の建築物については、6 集落中、4 集落で確認された。

集会所はすべての集落で確認された。

このように、要素分布傾向によって、閉鎖型であるが故の周囲の山との関係や、集落自体の形状・集落規模などの特徴を確認することができ、景観形成の要因の一つであるといえよう。

4. 線画からみた閉鎖型の特徴

ここでは、閉鎖型の集落から3つのそれぞれ違った景観的特徴を映し出した写真を線画化し考察していく。

図1は安琴（アングン）の主山ふもとから朱雀方向を見た図である。ここからは集落が細長く斜面に位置して青龍と白虎に挟まれており、朱雀方向の山々が集落から一望できることが確認できる。また、主山のふもとに墓を配置するという風水理念に適合していることも確認できる。

図2は龍田（ヨンジュン）の集落内から主山を見上げる景観である。線画で主山の位置やその存在を特定する過程で、閉鎖型の主山は開放型と比べて大きくてはっきりしているものが多いということが確認できた。これはやはり、要素分布の墓の位置と同じ理由にはなるが、川との関係も重視した開放型の得水法とは違い、山との関係を重視した蔵風法の理念によるところが大きいのではないかと考えることができる。また、このように大きな主山のふもとの斜面に集落が配置されることから、主山とは反対の朱雀方向の山も集落内から容易に確認できるという特徴がある。

これを顕著に表したのが図3の内春（ネチュン）の集落内から朱雀方向を見た図である。少し角度がずれるが、この集落でも青龍と白虎に囲まれた集落が、傾斜のある集落に立地していることから、朱雀方向の徳葛山を容易に確認することができる。またここでは、閉鎖型の要素分布の特徴といえる集落の入り口に位置した巨樹老木を確認することができる。

5. 総括

本稿ではこれまでに行われた韓国農村集落の地形構造的な特徴分析に要素の分布や風水理念との関係の分析を加えて、閉鎖型の景観的特徴についての研究を進めた。

今後はその独特の景観が住民や訪れる者に与える影響を分析し、風水景観の持つ効果を現代の景観学に生かせるよう研究を進めていきたい。

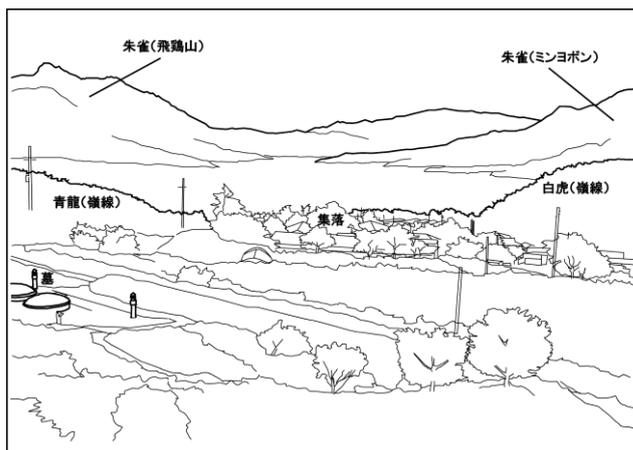


図1 安琴（アングン）朱雀方向

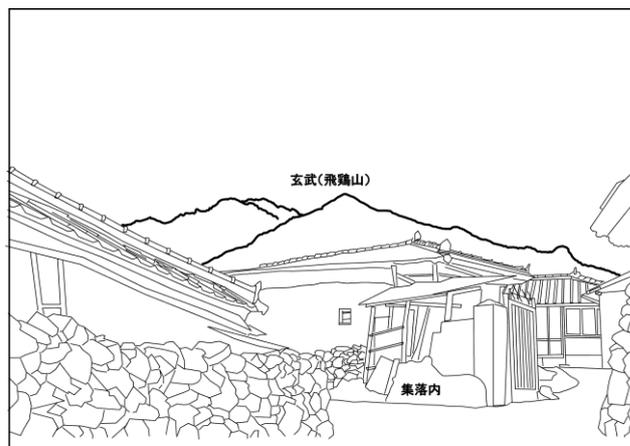


図2 龍田（ヨンジュン）玄武方向

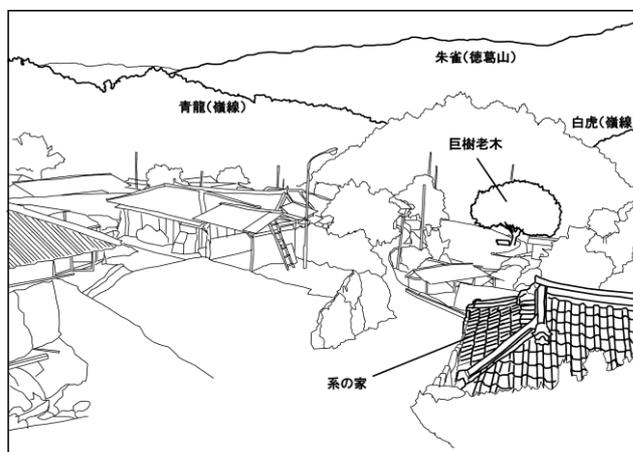


図3 内春（ネチュン）朱雀方向

【参考文献】

- 1) 山口泰佑・佐藤誠治・姫野由香・野口浩平：「韓国農村集落における風水景観に関する研究 その2 ―風景写真による景観分析―」，日本建築学会九州支部研究報告，No50，pp.305-308，2011.3
- 2) 渡邊欣雄・三浦國雄編：「環中国海の民俗と文化4 風水論集」，凱風社，1994
- 3) 村山智順：「朝鮮の風水」，朝鮮総督府，1931年
- 4) 李暎一・重村力：「集落立地と茅亭の位置の特性 韓国・茅亭の研究（その1）」，日本建築学会計画系論文報告集，No.434，pp.89-98，1992.4

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

*2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士

*3 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士（工学）

*1 Graduate Student, Oita Univ.

*2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ. Dr.Eng

*3 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng